

防災を考える市民の会
機 関 紙
第 6 6 号

は ん しょう
鐘 鉦

2008年2月2日
連絡先 宇治市宇治琵琶 45-2
宇治市職員労働組合気付
電話 22-5653、fax23-4960

防災を考える市民の会 結成8周年の集い

2月23日(土) 夕6時15分から開催します

**毎回好評の記念講演には、日本災害復興学会初代会長
に就任された室崎益輝・消防庁消防研究センター所長
にお願いしています**

2000年2月に「阪神大震災の教訓を忘れず市民のための防災のあり方を考える会（略称・防災を考える市民の会）」を結成してから早いもので、市民の皆様のご協力のもと、お蔭様で8周年を迎えることができました。

毎回好評いただいております集いの記念講演は、1月13日に発足した日本災害復興学会の初代会長に就任された室崎益輝・消防庁消防研究センター所長に来ていただくことになりました。

宇治川含む宇治全体の治水防災対策はどうあるべきか。私たちが何をしなければならぬのかなど、全国的な視点から見つめなおす記念講演になると確信しています。ぜひご参加ください。

参加は自由です。当日直接会場にお越しください。

2月23日会8周年の集いご案内

日 時 2月23日(土) 夕6時開場
6時15分開会

場 所 ゆめりあ宇治 会議室1

電話39-9377 JR宇治駅前です。

参加 直接会場にお越しください。尚、資料代等 500円のカンパをお願いします。

記念講演 「阪神大震災の教訓・・・減災とまちづくり」 室崎益輝・消防庁消防研究センター所長 日本災害復興学会初代会長

報告内容

《「会」昨年の取り組みについて》

紺谷吉弘・「会」事務局長

この後、参加者の皆様も含め多めに議論したいと考えています。

⇒終了後、「講師を囲む懇親会」を開催します

参加希望される方は、事前に事務局までお申し込み下さい

毎年恒例になりました「講師を囲む懇親会」を終了後、開催します。参加希望される方は、2月18日(月)までに会連絡先(電話22-5653)までご連絡ください。会費は、実費3500円です。当日お支払いください。

防災を考える市民の会 結成8周年の集い記念講演

室崎益輝 むろさき よしてる 先生のプロフィール

1944年、尼崎市生まれ。京都大大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。77年から神戸大工学部講師、80年に助教授、87年から教授。神戸大学都市安全研究センター教授を経て、総務省消防庁消防大学校消防研究センター所長。国の中央防災会議、兵庫県、神戸市防災会議などの専門委員。明石市の歩道橋事故調査委員会委員も務めるほか、震災犠牲者の聴き語り調査を継続されています。

主な著書に『大震災以後』（岩波書店、1998）、『建築防災・安全』（鹿島出版会、1993） 研究テーマは、建築物の防火避難設計▽都市の防災安全計画▽都市の災害復興計画一など。



室崎益輝先生のHPを見させていただいて検索数の多さにまずびっくりしました。「講演、シンポジウム、国や自治体の委員会など、休む間もなく、全国を飛び回る日々。その姿勢には「市民に真実を伝えたい」という使命感がにじんでいる。」と多くの方が述べておられます。室崎さんが取り組んでおられる震災の遺族からの「聞き語り調査」のきっかけは、震災の翌年の1996年1月にノンフィクション作家・柳田邦男さんから聞いた『震災を「5千人が死んだ一つの事件」と考えるのは死者を冒瀆してはいないか。1人が死んだ事件が5千件あり、5千通りの死があるはずだ』とのビートたけしの言葉だったそうです。

毎回好評の「会」の記念講演ですが、多忙な中で宇治まできていただけることに感謝し、今年も素晴らしい記念講演をお届けできると思います。ぜひご参加ください。

阪神大震災から13年 メモリアル特別企画 防災シンポ 1月18日 宇治川断層、天ヶ瀬ダム断層などの危険性も明らかに

防災を考える市民の会は、阪神淡路大震災から13年のメモリアル企画として1月18日、ゆめりあ宇治で防災シンポを開催しました。

シンポは志岐代表の司会ですすめられ、最初に記録映画 阪神・淡路大震災の人と街を見た後、紺谷「会」事務局長が最近発見した資料で、天ヶ瀬ダムの下に断層があることが明らかになったと報告。中川・国土研究会事務局長は、宇治川河川整備計画の問題点、国交省の宇治川1500トン/sの問題点や新たな巨大な放水路トンネル（流入部直径12m、出口の直径26m）の危険性、2週間近い長期間の放流での堤防決の危険性を指摘しました。

さらに宇治市参事の栢木危機管理課長が宇治市の危機管理について報告（右上の写真）。宇治では黄檗断層の震災被害が大きいと予測されていたが、宇治川断層（山科川合流付近から三河合流付近）が発見され、その被害予測が黄檗断層以上であることが明らかになった。生駒断層帯の地震も宇治への影響が大きい。これらに対応した対策が必要で着手すると報告されました。



宇治川の諸問題に関する淀川水系流域委員会の討議状況

1月29日 流域委員会 志岐代表の傍聴報告より



去る1月9日の第70回淀川水系流域委員会（左の写真）では、既報のとおり、第69回に引き続き、主に大戸川ダムと天瀬ダム再開発事業についての審議が行われました。しかし、塔の島地区の景観・環境問題や、槇島などの堤防破堤の恐れ、天

ヶ瀬ダムのトンネル計画地の地盤問題などに関しては、当会メンバーから訴えや説明がなされただけに止まり、またしても、委員たちの討議の中にはほとんど現れませんでした。1月29日の委員会では、天ヶ瀬ダム、宇治地区などについて、傍聴席からの発言の機会が得られはしましたが、そもそもの議題が丹生ダムと川上ダムについての総括的審議となっております。

今後2月11日、20日には下記のような総括的審議が行われることになりました。その審議での論点設定は、私は良く出来ていると思います。しかし、このままでは、宇治市民にとっての死活の重大問題は、何時審議されるのか、不安であると言わざるを得ませんでした。

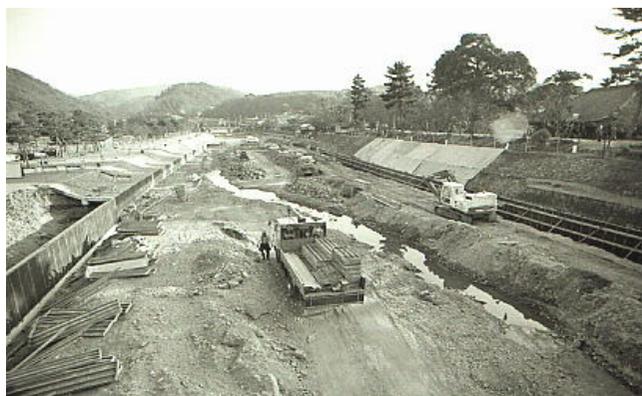
宇治市民の生命と生活の安全を守るためには、今こそ「会」の皆さんが、あるいは個別で、あるいはまとまって、手紙やファックス、Eメール、委員会での傍聴発言などを強めてくださることが必要です。また、「会」としては、かねて「会」から国土問題研究会に委託してある「調査報告」の「概要」の提出を急ぎ求め、これができ次第、淀川水系流域委員会の全メンバーその他に広く配布したいと考えています。

なぜ1500^トなのか、莫大な地元負担金の宇治の負担は、 などなど 市民にとって不明確、疑問だらけの天ヶ瀬再開発

河川法を生かし、「治水と利水と環境の保全と整備」の総合的な河川整備と河川整備計画に地域住民の意見を反映させる制度の実践をめざす淀川水系流域委員会は、7月に再開されました。8月に「淀川水系河川整備基本方針」の決定と「淀川水系河川整備計画原案」が整備局から発表。その内容が淀川推計流域委員会で検討されています。

宇治の治水は1100^ト/sで可能

第67回流域委員会では、宮本委員長は、「原案では『戦後最大洪水を安全に流すこと』を目標としている。この理屈で言えば、宇治川は『1500^{m³/s}改修』ではなく『戦後最大洪水対応、1100^{m³/s}改修、琵琶湖後期放流1100^{m³/s}』となるのではないか。」と指摘。ところが河川管理者は、琵琶湖後期放流のために「宇治橋地点」で1500^{m³/s}と算出したために、原案で示



前回の塔の島付近の改修工事。今回の計画では派川1m、本川0.4m、橋島下流1m切下げなどの更なる大工事が提案されています。

した宇治地点（三山科川合流点上流）では 1500 m³/s を超えてしまうような、説明不能で支離滅裂状態に陥っています。また河川計画に必要な流出流量について、上記以外の地域では算出根拠、数値、数式が明らかにされていません。

天ヶ瀬再開発などの莫大な地元負担金 261 億円

第69回流域委員会で、ようやく概算事業費が示されました。天ヶ瀬ダム再開発費用は、当初の330億円が430億円と100億円の増となり、**京都府は19.5%86億円**、大阪府71億円に。琵琶湖後期放流で最大の恩恵をこうむる滋賀県の負担は全くありません。大戸川ダムの建設でも、1000億円のうち滋賀県は1.6%16億円に対して、**京都府は12.5%125億円**もの負担となっています。川上ダムの**負担は50億円で261億円もの負担**となります。現時点での概算であり最終的に幾らになるのかわかりません。また京都府の261億円の負担金が各市町村にどれだけの負担となるのか。京都府が全額負担するとは思えません。しかも瀬田川鹿跳付近のバイパストンネル工事費130億円も未検証でさらに増加する予定です。



写真は天ヶ瀬再開発をしなければ7戸浸水被害が出るという琵琶湖江ノ島地区。「すぐに湖に出られるからここに住んでいる。何十年に1回浸かるのは承知の上」と住民は言っておられます。この地区は造成の失敗で地盤沈下が浸水の最大の要因ですが・・・。

日本一の放水路トンネル建設で、ダム河岸岩盤の安全性など未検証課題が山積

1500m³/sのために、当初提案の入り口12m、出口26mの放水路トンネル方式に変更されました。近傍に断層の存在が指摘されている中で岩盤強度などの検証も必要です。また放流時の環境調査も実施されておらず、安全性などで未検証課題は山積しています。審議資料や説明に対する質問の締め切りにも注意して質問・意見を委員会へ出しましょう。また各委員会が下記のとおり開催されます。委員会にも参加しましょう。

これからの流域委員会日程

- ☆ **2月11日(月) 午後1時半から5時半 第72回委員会** 京都市勧業会館みやこめっせ
 第73回委員会 2月20日 15:30~19:30 みやこめっせ、
 第74回委員会 3月11日 13:30~17:30 みやこめっせ、
 第75回委員会 3月26日 13:30~17:30 大阪会館 が予定されています。

2月の取り組み紹介

2月5日(火)午後7時から9時 宇治川シンポ 場所 生涯学習センターホールで共産党の主催で開催されます。

これまでこの種の取り組みは、上流、下流でそれぞれで開催されていましたが、今回のシンポは、同党の滋賀県議団の森茂樹団長もパネラーとして参加されます。上下流の問題点をどう解決・整理していくのか。初のシンポとして注目されています。淀川流域委員会・宮本委員長も参加されます。

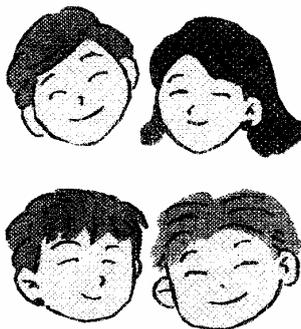
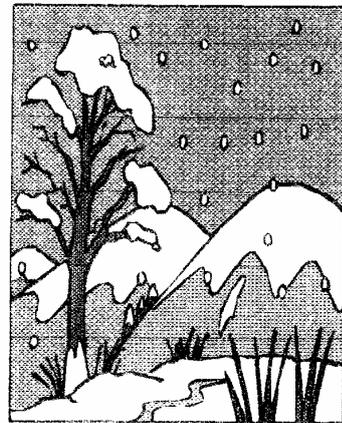
会への加入や運営資金カンパのお願い

皆様方のご支援、ご協力のもとで私ども「阪神大震災の教訓を忘れず市民のための防災のあり方を考える会・略称防災を考える市民の会」は、結成以降、様々な取り組みを展開して参りました。

さらに充実・発展させるために、一層の皆様のご支援・ご協力をお願いします。

また「会」の運営は、皆様方の協力金にて運営しております。誠に恐縮ではございますが、運営資金のご協力につきましてもよろしく願いいたします。

代表 志岐 常正



会運営 ・会に加入いただいた方より幹事を組織し、取り組みなど決定します。カンパなど協力いただいた方につきましては、機関紙や取り組みの案内を随時送付させていただきます。

協力金のお願い。 できますれば、下記のご協力をお願いします。

個人は、年一口 500円

団体は、年一口 2000円

協力金の支払い

・会役員や会事務局 宇治市職員労働組合書記局へ直接持参してください。

・銀行振込みの場合は、 京都銀行 宇治支店 「防災を考える市民の会」

普通預金 4147864 番へお願いします。

----- き ----- り ----- と ----- り ----- せ ----- ん -----

「会」加入・協力金募金 申込書

協力金・領収書

防災を考える市民の会に 加入・協力金募金 します。

住 所
連絡先
氏 名

_____ 円
防災を考える市民の会
2008年 月 日